

総領事館便り6月号



＜総領事館ニュース＞

☆第36回東ジャワ地区日本語弁論大会の開催

5月23日、スラバヤ国立大学にて、在スラバヤ日本国総領事館、国際交流基金及び元留学生協会（プルサダ）東ジャワ支部共催、東ジャワジャパンクラブ（EJJC）後援で、第36回東ジャワ地区日本語弁論大会が開催され、東ジャワ州各大学から選抜された13名が出場しました。出場者は日本人と仕事をした感想や自分の故郷の紹介、日本への情熱などに関し弁論しました。

加藤義治総領事は挨拶の中で、自身がジョグジャカルタでインドネシア語を学んだ経験を振り返り、言語を通じて文化を学ぶのは素晴らしいこと、是非皆さんも習得した言語・文化への知見を通じて日・インドネシアの架け橋になってほしいと述べました。

優勝したのは「将来の頑丈な基礎」と題し将来の夢を実現させるために小さな努力を重ねることの重要性を語ったブラウイジャヤ大学（マラン市）のマリア・フロレッタさん。

準優勝は、アイルランガ大学（スラバヤ市）のグラム・ビンタン・シャーリアルさん。「笑顔の力」と題し、貧しくて学校に行けない子供たちのために行っている自らの活動を紹介するとともに、笑顔で人がつながり幸せになる重要性を説きました。

3位には「奇跡」と題し、ドクターストモ大学（スラバヤ市）のリズキ・エカ・プスピタサリさん。高校生のときに大好きになった日本語の学習を続けたくて、日本語学科のあるスラバヤ市の大学に進学。カリマンタンで一人っ子として育った彼女が、両親のサポートを得て、島の外に出られたことは奇跡と話しました。

優勝、準優勝の2人は東ジャワ地区代表として6月20日に行われる第44回全国日本語弁論大会に参加します。後援として賞金や審査にご協力くださった東ジャワジャパン・クラブの皆様、審査員を努めてくださいましたスラバヤ日本人学校の皆様、会場に足を運んでいただいた皆様に対し、心よりお礼申し上げます。



加藤総領事（前列左から4番目）、参加者（後列）
及び審査員の皆様



表彰式
左：河口 EJJC 会長、右：優勝者のマリアさん